

## Global and Innovation Gateway for All

## GIGA 通信

-児童生徒 1 人 1 台端末の日常的な活用に向けて-



発行元

佐野市教育センター

佐野市上羽田町 1134 番地 1

電話 20-3108

20-3048(相談専用)

教育センターでは、ICTに関する新たな研修会として「端末を活用した授業づくり研修会」を年間 2 回（6・8 月）実施します。6 月の研修会では、26 名の先生方が教科ごとのグループに分かれ、これまでの活用事例やアイデアなどを互いに出し合いながら、端末を活用した授業の構想シートを作成しました。

授業において端末は、必ず使わなければならないものではありません。また、使えば使うほどよいというものでもありません。活用のポイントは、授業において端末を「どの部分で、どのように使うと効果的か」ということです。そこで研修会では、次の 3 つの視点で授業づくりを考えました。

1. 「主体的な学び」を意識した活用
2. 「協働的な学び」を意識した活用
3. 授業の効率化・先生の業務改善のための活用

参加の先生方からは、「どのように端末を使えばよいか分からず困っていたので、具体的な活用方法をたくさん知ることができてとても有意義な時間だった。」「先輩の先生方の実践もお聞きすることができ、大変勉強になった。」「本日の研修で考えた授業を実際に端末を使ってやってみようと思う。」など、多くの感想をいただきました。お忙しい中、研修に御参加いただきありがとうございました。

## 『端末を活用した授業づくりの視点に基づく実践例』 (出流原小、赤見小、西中)

今回の GIGA 通信では、授業づくりの 3 つの視点のうち 2 つの視点について、出流原小学校、赤見小学校、西中学校での実践例を紹介いたします。

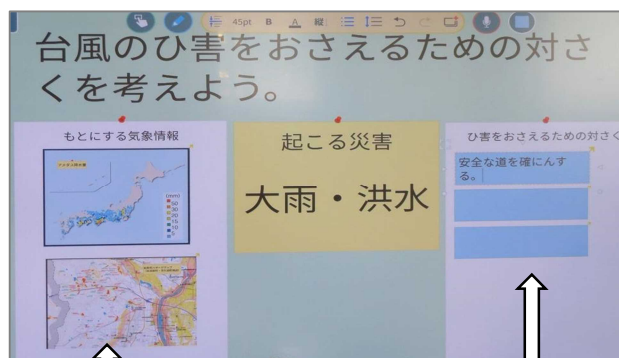
## ◇「主体的な学び」を意識した端末の活用

児童生徒が「主体的な学び」を実現できたとき、次のような姿を多く見ることができます。

- ・学習への興味・関心を高めている。
- ・学習の見通しをもっている。
- ・学習していることを自分と結び付けている。

- ・学習に粘り強く取り組んでいる。
  - ・学習したことを振り返って次へつなげている。
- 授業においては、特に「学習への興味・関心を高めたい」場面で、1 人 1 台端末の活用が有効です。

出流原小の先生は、5 年生理科「天気の変化 (1) 台風と気象情報」において、児童が台風による被害を抑えるための対策を考える際、ロイロノートで次のような作業シートを作成しました。



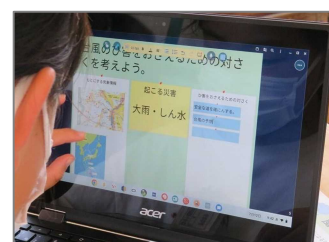
考えのもとにする情報を資料箱から選んで貼り付ける。

台風によって起こる災害の被害を抑えるための対策を考えて、付箋に書く。

児童が考える際にもととなる情報（ハザードマップ、アメダス、台風の予想進路図など）は、事前にロイロノートの資料箱に保存。

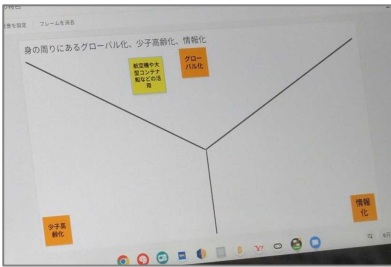


作業シートによって、児童は学習の見通しをもつことができ、教科書やインターネットで調べたり、台風に関する様々な情報を分析したり、情報を通して自分自身のこれまでの台風に関わる見聞や体験を想起したりしながら、被害を抑えるための対策を主体的に考え、シートを作成していました。児童の姿からは、学習への興味・関心が高まっていることを感じました。

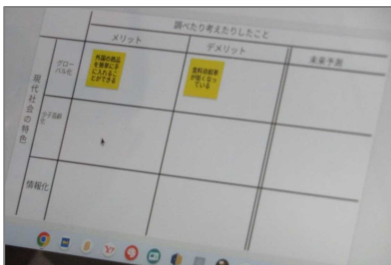


西中の先生は、生徒が見通しをもって学習を進められるよう、単元の学習の流れを表にまとめ、「学習の手引き」として 1 人 1 台端末で生徒に提示をしています。

3 年生社会科「私たちは現代社会にどう向き合っ生きていくか」では、「①身の周りがあるグローバル化、少子高齢化、情報化について」と「②グローバル化、少子高齢化、情報化それぞれのメリッ

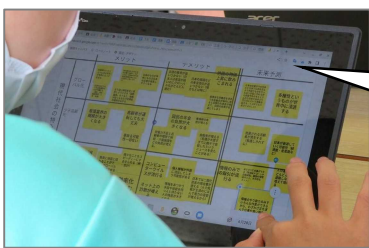


↑ 課題①のシンキングツール



↑ 課題②のシンキングツール

ト・デメリットについて」という 2 つの課題について調べたり考えたりしたことを整理する 2 種類のシンキングツールを Jamboard に用意しました。生徒は、まず個人で考えを整理し、その後グループや学級全体でそれぞれの考えを共有しました。シンキングツールを活用したり、必要に応じて教科書、インターネットなどでテーマについて調べたりしながら、生徒は個別での学習に主体的に取り組んでいました。



シンキングツールを使って考えをまとめる生徒



教科書やインターネットを使って調べ、考えをまとめる生徒も。個々の生徒が自分に合った方法で学習を進めていました。



◇「協働的な学び」を意識した端末の活用

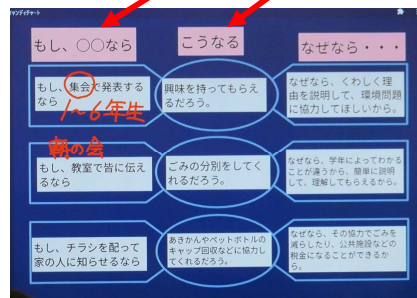
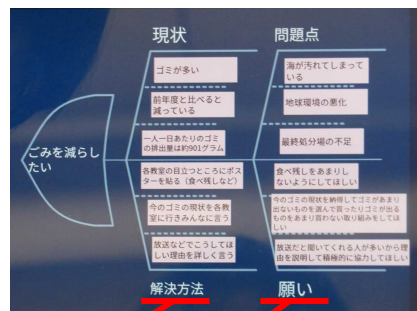
自分とは異なる価値観をもつ他者と情報を共有したり対話したりしながら共に学ぶ「協働的な学び」

を充実する上でも、1 人 1 台端末の活用はとても有効です。

赤見小の先生は、6 年生国語「私たちにできること」において、意見文を書くための材料を集め、グループで話し合っって分類したり関係付けたりしながら整理するという学習過程において、ロイロノートの 2 種類のシンキングツールを効果的に組み合わせで活用しました。

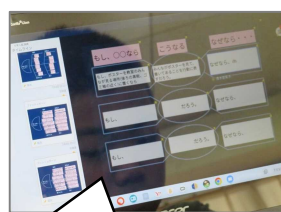
児童は、まず、フィッシュボーンを活用して、自分が取り組んでみたい身近な環境問題について 4 つの観点（現状、問題点、解決方法、願い）で整理をしました。それをグループで発表し合い、自分の考えを修正したり、新たな考えなどをシートに付け加えたりしました。次にキャンディチャートを活用し、フィッシュボーンでまとめた 4 つの観点のうち「解決方法」と「願い」の部分を使って、グループで読

↓シンキングツール①（フィッシュボーン）



↑シンキングツール②（キャンディチャート）

み手への提案内容を考えました。谷先生は、事前にグループごとに共有ノートを準備してました。先生の説明で 2 つのシンキングツールの関係を理解した児童は、早速自分たちのフィッシュボーンを共有し、自分の意見を伝えたり友達の書いた内容に質問したり、とても活発に話し合いながら、キャンディチャートにグループで考えた提案内容をまとめていました。



グループごとに共有ノート



互いのシートを確認しながら協働で 1 枚のキャンディチャートを作成。